



令和4年度 全国学力・学習状況調査の結果について



田川市教育委員会

Ⅰ 概要



(1) 全国学力・学習状況調査の目的

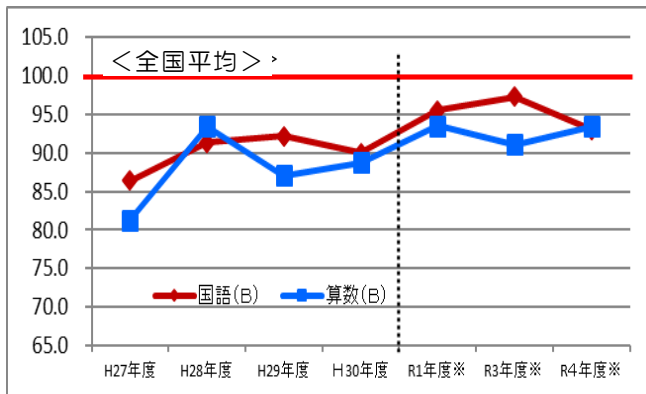
児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、本市教育施策の評価及び改善策を検討することで、市内小・中学校における学力向上を目指す。

(2) 調査の種類と特徴及び実施日、対象者

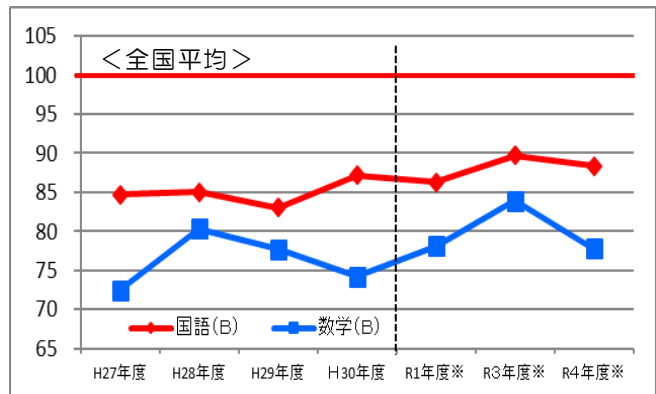
調査の種類	実施日及び対象者	調査内容	特徴	調査科目
全国学力・学習状況調査 (文部科学省)	令和4年4月 小学6年生 中学3年生	学力調査	全国と比較した本市の学力状況がわかる。	小:国語・算数・理科 中:国語・数学・理科
		学習状況調査 (質問紙調査)	学習や生活習慣に関する児童生徒の意識がわかる。	

2 市内児童生徒の学力・学習状況について

(1) 全国学力調査の推移から



市内小学6年生



市内中学3年生

標準化得点の推移		H27年度	H28年度	H29年度	H30年度	R1年度※	R3年度※	R4年度※
	国語(B)		86.4	91.3	92.2	90.0	95.5	97.3
算数(B)		81.3	93.4	87.1	88.7	93.5	91.1	93.4

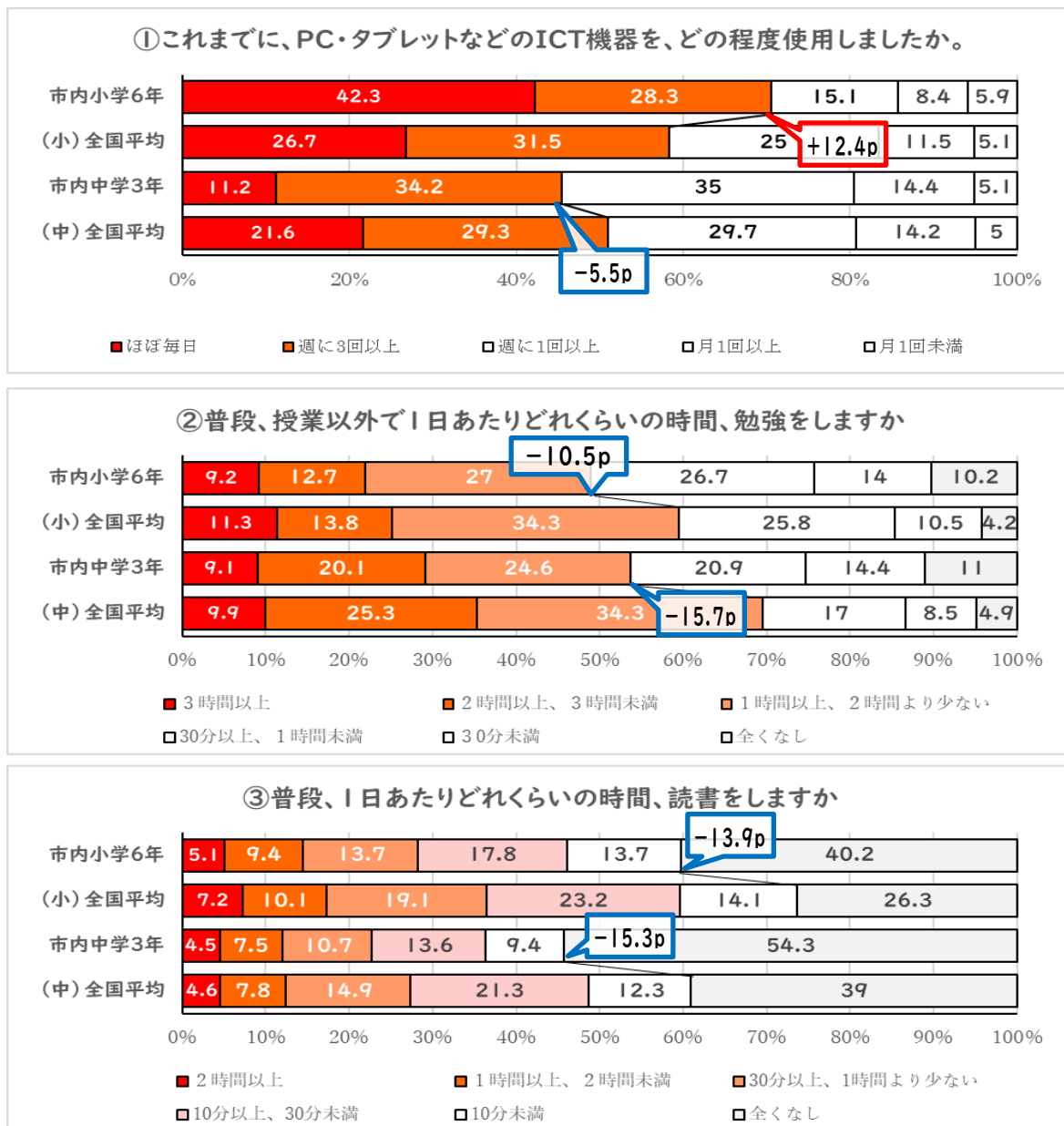
標準化得点の推移		H27年度	H28年度	H29年度	H30年度	R1年度※	R3年度※	R4年度※
	国語(B)		84.7	85.0	83.0	87.2	86.3	89.7
数学(B)		72.5	80.3	77.7	74.2	78.1	83.9	77.8

【図-1: 全国学力調査結果の推移(H27年度~R4年度)】

※令和元年度より、基礎と活用を統合した問題に変更になっています。令和2年度は、実施されていません。

図-1は、全国学力調査結果の標準化得点の推移をグラフ化したものです。これを見ると、令和4年度は、小学校算数が過去最高と同レベルの結果となりましたが、その他の教科区分は現状維持、あるいはやや下降となりました。ここ数年、基礎力の定着により結果の改善がみられてきましたが、結果の分析を行う中で、読解力や活用力を問われる問題の正答率に伸び悩みが見られました。学校における新たな授業づくりへのシフトチェンジとともに、家庭や地域と連動した学力向上の取組のさらなる充実が必要であるといえます。

(2) 児童生徒質問紙結果から



【図-2:令和4年度 児童生徒質問紙結果 全国平均との比較】

図-2は、令和4年度児童生徒質問紙調査の結果です。①では、特に小学校において全国平均を大きく上回っており、日常的な ICT 活用が進んでいることがうかがえます。一方、②では、授業以外での勉強時間が、依然として全国比で不足していることが分かりました。また、③では、1日あたりの読書時間が小中ともに全国比を下回っているだけでなく、全く本にふれていない児童生徒の割合がとても多いということも分かりました。

(1)(2)の調査結果から、次のような課題や方向性が明らかとなりました。

- 学力の基盤となる力の育成に向けて、引き続き小中9か年を通して行う必要がある。
 - 「活用力」の育成に向けた授業スタイルの改善に取り組む必要がある。
 - 「自学自習力」や「読解力」を育む家庭学習の充実を図る必要がある。
- 以上のことから、田川市教育委員会では、次の3つの改善策に取り組みます。

3 改善策

① 学力の基盤となる力の育成に向けた徹底反復学習を進めます。

田川市の全小・中学校では、学力の基盤となる学習能力（集中力、学習意欲、計算力、語い力）の育成を目指して、毎朝10分程度の徹底反復学習（朝の学習やモジュール学習）に取り組んでいます。市内小・中学校一斉に取り組むことで、教員や児童生徒にとっては毎日のルーティーン（日課）となり、習慣化されています。この取組で身に付けた学習能力を授業においても存分に発揮できるよう、学校では、子どもたちにとって心地よいスピードとテンポで、学習内容を精選して行う「集中速習スタイルの授業」を各教科で行ってまいります。



② 主体的に学ぶ力や身に付けた知識や情報を活用する力の育成を重視した新たな授業スタイルに挑戦します。

ますます複雑化する社会をたくましく生き抜くためには、自ら問題を見つけ、得た知識や情報を整理・判断し、自分なりの表現方法で発信できるような「主体的に学ぶ力」や「活用する力」を身に付けることがとても大切です。

市内学校では、1人1台のタブレット端末を使って、デジタル教科書やデジタル教材を用いた個に応じた学習や、仲間と問題を解決する「協働学習」を積極的に行うなど、これまでとは違った授業スタイルに挑戦し、効果のある実践を市内教員で共有してまいります。



③ 学校と家庭が連携して読書（うちどく）を推進します。

読書は、子どもたちの読解力や豊かな想像力を育む上でも大変重要です。しかしながら、今回の調査結果では、田川市の小・中学生の読書量の少なさが明らかとなりました。また、子どもたちが読書をするきっかけとして、家族と一緒に本を読んでもらったり、図書館に連れて行ってもらうことが大きな割合を示していることが明らかとなっております。

このような結果をふまえて、教育委員会では、学校と家庭・地域が相互に連携して読書に親しむ環境づくりに、なお一層力を入れてまいります。学校では、新刊図書の購入や市立図書館の移動図書館の利用、電子書籍（school e-library）の利用など、本を読みたくなる環境づくりにつとめてまいります。

ご家庭においても、「読書時間は大切な家庭学習時間のひとつ」ととらえていただき、短い時間（10分以上）でも一緒に本を読む時間をつくることや、休みの日に一緒に図書館に行くなど、ご家庭でできる読書活動（うちどく）に取り組んでみてください。



本市は、学校・家庭・地域・行政がそれぞれの役割を自覚し、「ぐるみ」で学力向上を目指します。今後も、本市の学力向上の取組にご理解とご協力のほどよろしくお願いいたします。

